

令和3年度学校自己評価システムシート (県立児玉白楊高等学校) n19

目指す学校像	母校を愛し、地域の未来を担う心豊かな産業人を育成する学校 ※令和2年度～
--------	--------------------------------------

重点目標	1 主体的な学びの実現と確かな学力の育成 2 地域と協働した魅力ある学校づくり 3 実学としての資格取得の推進と100%の進路実現 4 社会で通用する産業人の育成と部活動の充実 ※重点目標1～4：令和2年度～
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	10名

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 1 0 日 現 在)	
年 度 目 標	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	「確かな学力の育成」は、学校における重要課題であり、本校にとっても関係者全員で取り組むべき目標である。その際、最も効果的なのは、生徒が主体的に取り組むようになることである。そのために全教職員で「主体的な学び」を実現すべく、日々授業改善に取り組んでいるところであるが、ICTの効果的な活用を模索しながら、引き続き注力していく必要がある。 また、日々実施している朝学習は、基礎学力の定着に効果をあげている。更なる充実を求めて、引き続き工夫改善を図る必要がある。	(1) 教職員が「主体的な学び」の実現に向けた授業改善を行う。 (2) 生徒の「確かな学力の育成」に向けた効果的な学習支援を行う。	(1) BYOD環境を活用した授業を行い、生徒が主体的に取り組む機会を増やす。 (2) ICT活用プロジェクトチームにより、生徒の学習活動のICT化を推進し、実践事例を共有する。 (1) 朝学習を活用し、国語、数学、英語の基礎学力の伸長を行う。 (2) 生徒の実態に応じた個別学習や成績不振者に対する指導を充実させる。 (3) 授業のユニバーサルデザイン化の概念を取り入れ、指導方法や教材の提示方法等の改善を行う。	(1) 生徒アンケートにより、学習に主体的に取り組む生徒の割合を8割程度に維持できたか。 (2) 8割の教員がICTを取り入れた授業を行い、学習指導の工夫・改善を行うことができたか。 (1) 基礎力診断テストで基礎学力の伸びを測り、7割の生徒が向上したか。 (2) 成績不振者の割合及び欠点解消率が昨年よりも改善できたか。 (3) 6割の教員がユニバーサルデザインの概念を取り入れた授業改善に取り組んだか。	(1) 生徒アンケートで、「意欲的に朝学習に取り組んでいる」が76.5%、「意欲的に定期考査に取り組んでいる」が72%、「意欲的に資格取得に取り組んでいる」が69.8%と、所期の目標を概ね達成している。 (2) 8割には到達しなかったが、5割の教員がPCとプロジェクトを用いた授業を実践した。	A B
2	学校の抱える諸課題が複雑化・困難化し、学校単独では解決が困難である現代において、学校と地域が協働した学校づくり・地域づくりは、今や不可欠である。このような中、本校では地域と連携した取組を推進し、本校の魅力の発信、また生徒の自己有用感の醸成等に成果を上げてきた。 今後は、令和5年度の新校立ち上げを見据え、今までの取組をベースに「社会に開かれた教育課程」の具現化に向けて取り組む必要がある。	(1) 「社会に開かれた教育課程」を見据えた地域との協働の取組を行う。 (2) 地域に専門学科である本校の魅力を発信する。	(1) 地元企業の技術者や農業関係者に講師として来ていただき、その知識や技術を授業や補習等に活用する。 (2) 児玉新校の開校を見据え、「地域協働」によるPBL(課題解決型学習)の研究と体制構築に取り組む。 (3) 市や自治体等と連携し、地域交流に取り組む。 (1) 地元小学生等を対象に「親子でおもしろ体験講座」を実施し、ものづくりの良さを体験してもらおう。 (2) 専門高校の魅力の理解を促進するため、地元中学校教員対象に農業科及び工業科に関する説明会を行う。 (3) 各学科の教育活動を中学校でパネル展示したり、学校だよりの作成やHPの更新を行う等、広報活動を強化する。	(1) 地元企業の技術者や農業関係者を活用した授業等を年5回以上できたか。 (2) 児玉新校開設準備委員会がPBLの研究及び体制構築に向けた取組を行ったか。 (3) 市や地域の要請により、連携しながら地域交流を行えたか。 (1) 「親子でおもしろ体験講座」を、新型コロナウイルス感染症予防を徹底し実施できたか。 (2) 地元中学校教員向けの学校説明会を実施できたか。 (3) 2学期にパネル展示ができたか。学校だよりを年8回以上配布できたか。HP閲覧数が昨年よりもアップしたか。(R2：610,011増)	(1) 電子機械科で企業技術者を、環境デザイン科で農業関係者を活用した授業を実施し、年5回以上の当初計画を達成した。 (2) 「総合的な探究の時間」の実施に向け、基本方針の策定や体制づくりに向けての取組を実施した。 (3) 各地域イベントが中止となったものの、「競進社の小さな市場」に参加し、生産物の販売等を行った。また、3年間継続している「花いっぱい運動」を年2回実施できた。児玉駅やオリンピック・パラリンピック関係の装飾等で学習成果を発表することができた。 (1) 「親子でおもしろ体験講座」では、4学科・1教科で5コースの講座を設定し、小学生とその保護者に参加してもらったことができた。 (2) 2つの中学校で教員向け学校説明会を実施した。 (3) 地域8中学校でパネル展示を実施した。学校だよりの白楊TIMES)を年11回発行した。HP閲覧数(1/7現在：452,059増)は昨年のアップ数を下回った。	A B
3	本校では専門学科の特色を生かし、社会で役立つ資格取得に積極的に取り組ませている。生徒にその意義を理解させながら、資格取得の取組を更に充実させていく必要がある。 また、就職内定率100%の達成については、学校関係者からも「教職員の情熱と努力の結果」と高い評価を受けている。昨年度はコロナ禍の影響でインターンシップが実施できず、更に今年度も厳しい状況が予想されるが、この成果を維持すべく、引き続ききめ細かな進路指導に全教職員が一丸となって取り組む必要がある。	(1) 社会で通用する資格取得の取組を充実させる。 (2) 生徒の進路希望を100%実現させる進路指導等を行う。	(1) 専門性の高い難関資格取得に向け、授業や補習等の充実と引き続き取り組む。 (2) 高校生専門資格等取得表彰、ジュニアマイスター、及びアグリマイスター顕彰等の取得者の増加に取り組む。 (1) 進路指導年間計画に基づき、各学年で進路ガイダンス等の行事を実施する。 (2) 2年生でインターンシップを実施し、勤労観や就労感の醸成を行う。 (3) 3年生で、就職希望者の会社訪問や進学希望者の学校見学を行わせ、進路実現に向けた意識の醸成を図る。	(1) 令和元年度よりも検定や資格の取得率が向上したか。 (2) 高校生専門資格等取得表彰、ジュニアマイスター及びアグリマイスターの取得者が令和元年度よりも増加したか。 (※令和2年度は多くの検定実施が中止となったため、元年度と比較) (1) 年間計画に基づき、各学年で進路行事を実施できたか。 (2) 就職希望の2年生が全員インターンシップに参加したか。 (3) 会社見学や学校見学により進路意識が向上し、100%の進路実現につながったか。	(1) 資格・検定の取得率は56.3%であった。(1月現在)(元年64.7%)。 電子機械科3学年では約97%の生徒が2つ以上の資格を取得した。埼玉県高校生専門資格等取得表彰35名、国家資格の第二種電気工事士合格者3名、造園技能検定合格者3名、技能検定(電子機器組立)3級合格者9名等、高い実績をあげた。 (1) 年間計画に基づき、各学年で組織的な進路指導を実施した。12月21日には、1学年で「進路講演会」、2学年で「進学学校別分科会」「就職業種別分科会」「進路・就職講演会」、3学年で「演劇型(進路)講演会」「進路決定後講演会」を実施した。 (2) 新型コロナウイルス感染症拡大防止から、昨年に続いてインターンシップを中止した。 (3) 会社見学や学校見学等を行い、進路実現に向け生徒が主体的に取り組んだ。	B A
4	全教職員の共通理解の下にきめ細かな生徒指導に取り組む、指導件数や遅刻者数は、昨年度減少し、生徒たちは大変落ち着いて教育活動に取り組んでいる状況である。さらに、3年間の高校生活の様々な機会を通して、社会で通用する産業人に成長できるよう学校、家庭、地域で連携・協働した指導を推進する必要がある。	(1) 社会で通用する産業人を育成するための指導を充実させる。 (2) 充実した高校生活の重要な要素である部活動を活性化させる。	(1) 遅刻指導や整容指導により、社会人としてのマナーを醸成する。 (2) 保護者との連携を強化するため、メール配信を引き続き活用する。 (3) 巡回支援を活用しながら特別な支援が必要な生徒の支援に取り組む。 (1) 児玉高等学校との統合に向け、合同練習等を通して活性化を図る。 (2) 資格取得のための補習やその他の活動とのバランスを調整しながら、部活動を続ける生徒の割合を向上させる。	(1) 遅刻指導や整容指導により、前年比で指導対象者が減少したか。 (2) 通知・お知らせの配布や行事についての連絡をメール配信でも実施できたか。 (3) 巡回支援を8回実施し、生徒の支援に活用できたか。 (1) 児玉高等学校等との合同チームで公式戦等に参加する機会が増えたか。 (2) 部活動を続ける生徒の割合が増えたか。	(1) 遅刻者が昨年度の1.7倍に増加した。また、整容指導では継続的な指導を要する生徒が増加した。 (2) メール配信を利用し、学校からのお知らせや通知等を保護者に伝えることができた。 (3) 巡回支援は4回に留まったものの、多文化共生推進員による支援を20回活用し、個別の支援を実施できた。 (1) 野球部、サッカー部、ソフトテニス部等で児玉高等学校との合同練習を実施した。また、連合チームで公式戦等に参加した。 (2) 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、年度当初から分館登校等が実施され、部活動加入手続きが予定通り行えなかったこと、また活動制限があったこと等、実施上の困難があり、続ける生徒の割合は増加しなかった。	C B

学 校 関 係 者 評 価

実施日 令和4年3月10日

学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 朝学習の充実と遅刻者の減少と社会常識の定着、基礎学力の向上に効果が大きいと考える。 ICTを取り入れた授業等、授業形態が益々進歩する状況にあるが、まだ試行錯誤の段階でうまく授業として成り立っていない様子も見られる。授業展開に力点を置くだけでなく、授業への心構えや授業の受け方ルール等の生徒の意識高揚も必要である。 目標には到達していないが、ICTを積極的に活用した授業を行うことができている。その一方で、欠点解消に繋がっていないか、基礎学力の向上が見受けられなかったことから、朝学習の取組内容を再考されると良いと考える。 生徒の主体的な学びの実現に向けた授業改善に取り組んだ点について、朝学習で7%、資格取得で70%の生徒が前向きに取り組んだと回答しており、効果をあげている。今後も創意工夫した学習指導により、学力の確保をお願いしたい。また、生徒の実態を注視し、何が問題なのかを検証し、学力の確保に向け取り組んで欲しい。 普通教科の基礎学力不足や学習意欲の低さを学校の課題として捉えて目標を設定し、様々な方策により効果をあげていることは高く評価できる。 デジタル社会の実現に向け、ICT等の活用は重要であると考えられるが、ICTの活用が学力テストで測れる学力の向上には役には働かないことに留意する必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> 地元自治会として高齢者との交流を取り入れた実習等に期待している。対人関係における常識や思いやりの心の醸成につながり、生徒が社会へ出てから役立つものと考えられる。 学校より「白楊TIMES」は地域の小中学校・高等学校の中でもっとも見やすく目を引くものである。コロナウイルスの影響はあるものの、地域に根ざした活動は活発にできていると認める。中止になり今までのようなイベントもあるが、気にかけてくれる地域の人々に、学校以外にも今の様子を知らせてもらう機会があると良いと思う。 コロナ禍で各種イベントが中止となる中、他のイベントへの参加は生徒から考え、行動・実行していく姿は大変評価できる。また、「競進社の小さな市場」や「花いっぱい運動」の長年にわたる活動についても高く評価している。これらも地域貢献を通じて、持続可能な専門高校の実現に向け取り組んで欲しい。 社会人になると危機管理や様々な環境への対応力が求められる。現状認識や環境を見極める力を養うには教職員の助言や指導が必要と考える。これらも適切な指導を期待する。 福保一役後190年記念事業に際し、オブジェの製作やペーパーウェイトの寄贈等、素晴らしいことであると考える。 中学校でのパネル展示による学校・学科紹介は、「児玉白楊では何を学ぶのか」ということを、五感を通して理解できるので、感謝している。今後ともよろしくお願ひしたい。 地元企業との協働の取組をさせていただいていることに感謝する。「ものづくり」を担う企業として、次世代のものづくり人材育成につながる非常に重要な活動と考えている。 生徒の育成のみならず、保護者や地元小中学校へつなげる活動をしていることは非常に良い取組である。是非とも活動を継続していただきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響により十分な指導が行えない状況にあって、100%の進路実現に向けた取組には大変な御苦労があったと推察している。 通常の教育活動を行うことが難しい状況の中、資格取得に向けた取組や年間指導計画に則ったキャリア教育を着実に推進されたことは、素晴らしいことであると考える。次年度も様々な事態に対応できる進路指導体制を維持していただきたい。 昨年からZOOM等のオンラインツールを使用した会社見学や学校見学、または試験等を行うケースが増えてきている。次年度も、多様なコミュニケーションツールを活用し、引き続き生徒の進路実現に取り組む。
<ul style="list-style-type: none"> 次年度は遅刻者の削減に向け、保護者と一層連携することが必要である。通知配布だけでなく、メール配信やHP等を活用し、連携強化に取り組む。また、次年度は生徒の健康管理意識を醸成し、早寝・早起きの習慣等生活習慣の改善にも傾注していく。 多様な生徒が在学している実態を踏まえ、巡回支援員や多文化共生推進員を引き続き活用し、個別の支援を充実させていく。
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者が昨年比で増加した理由を検証する必要がある。遅刻は社会に出てからは容認されないことを充分認識させる必要がある。改善に向けての対策及び取組に期待したい。 成人年齢が引き下げられる状況の中、他人の信用を失わない「時間が守れない生徒」の増加については、幼少期からの生活習慣等の改善が必要である。 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、部活動が制限されてきた。上級生から学ぶ機会や経験が縮減してきているように感じる。 生徒指導に関して、学校だけの努力では実現しない部分が多い。家庭や社会との連携が必要であると考える。特に保護者に対してはもっと積極的に学校全体の様子を知ってもらう機会を設けて欲しいと思う。 児玉高校との統合に向け、教職員一丸となり生徒の資質向上と充実した高校生活を送れるよう取り組んでいただきたい。また、統合後の普通科と専門科との生徒の融合にも気配りをお願いしたい。 新型コロナウイルス感染症の影響で、日常生活及び学校生活に大きな変化が生じたり、活躍の舞台が限られたりすることが、生徒の精神的負担となっていることは否めない。そのことが生活習慣の乱れに繋がっていることも考えられるので、今後、細やかなサポートに取り組まれることを期待している。